エゾトンボ　*Somatochlora viridiaenea* (Uhler)

【選定理由】

旧市町村単位の絶滅率は58%、現存数は 5.5 であり、絶滅危惧Ⅱ類に相当する。

♂. 豊田市深見町, 1999 年 11 月 6 日, 鵜殿清文 撮影

【形　態】

全身に鈍い金属光沢のある暗緑色の中型のトンボである。同属のハネビロエゾトンボとは腹部第 4 節以降に黄色斑があることで区別できる。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾張～三河の丘陵地から山地にかけての 13 市町村で記録されている。

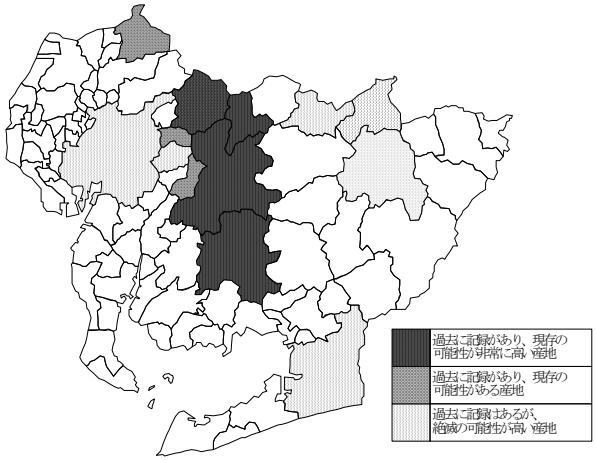
【国内の分布】

北海道から九州北部にかけて分布し、隠岐等の離島でも記録されている。

【世界の分布】

ロシアに分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

成熟成虫は、おもに丘陵地から山地にかけての湿地で見られる。未熟成虫は、発生地からかなり離れるようで、林道や空き地、谷筋の開けた空間等で摂食飛翔するのが見られる。幼虫は、水中の植物等につかまっているか、浅く泥の中に潜り込んでいる。典型的な向陽湿地の住人である。

6 月後半頃から羽化し、成熟成虫は 8 月を中心に見られる。成虫になるまでに 2 年程度を要すると思われる。

【現在の生息状況／減少の要因】

尾張の東部丘陵地から西三河にかけて現存している。西三河では岡崎市の湿地で新たに確認されたが、いずれの産地も個体数は少ない。東三河では 1950 年代に豊橋市等で記録されているが、その後の追認記録はない。

本種が生息する湿地は、特に山間部では埋め立てられることは少ないが、実際には三河山間部では絶滅状態になってしまった。その要因としては、二次林の減少／消失による湿地の水位低下や、砂防ダムの改修等による水位上昇で上流部の湿地が消失、といったことが推測される。また三河だけに限ったことではないが、1994 年の渇水による湿地の干上がりは、多くの産地で幼虫の乾燥死、成虫の産卵場所の消失等を引き起こしたと思われ、湿地という微妙な環境に生息する種の存続の難しさを物語っている。

【保全上の留意点】

1）幼虫の生息域である湿地及びその集水域を涵養する二次林の保全
2）成虫の休息域である水域周辺の林地の確保

【特記事項】

全国的に見れば、特に東日本には広く分布し、西日本でも山地では比較的多く見られる場所もあるが、愛知県では非常に分布の限られる種である。和名は主たる生息地である北海道に由来する。

（吉田雅澄）